

プロムナード コンサート²⁰²²

△ プログラム

指揮：平川範幸



2022年1月15日



開場 13:20 開演 14:00



つくばセンタービル ノバホール

 筑波大学管弦楽団

ごあいさつ

団長 尾崎怜央

本日はプロムナードコンサート2022にご来場いただき、誠にありがとうございます。

このコンサートでは、どんな方にもオーケストラを身近に感じていただけるよう、様々な編成やジャンルの曲をご用意しております。第1部では、各楽器の音色が光る、小編成のアンサンブルをお楽しみください。そして第2部では大編成のオーケストラとなり、人々の苦難や闘争を表現した『フィンランディア』、喜歌劇と訳されるオペレッタの最高峰『こうもり』の序曲、スタジオジブリでお馴染みの「ハウルの動く城」より『SYMPHONIC VARIATION “MERRY-GO-ROUND”』の3曲をお届けいたします。ぜひそれぞれの世界観を想像しながらお聴きください。

最後になりますが、今回の演奏会を開催するにあたりご指導を賜りました平川先生をはじめ、トレーナーの先生方、顧問の先生方、OB/OG並びにスタッフの皆様、地域の皆様、そしてお越しいただいた皆様に心より感謝申し上げます。どうぞ、最後までお楽しみください。

指揮者紹介

平川範幸

福岡県出身。福岡教育大学卒業。上野学園大学研究生〈指揮専門〉にて下野竜也、大河内雅彦の各氏に師事。桐朋学園大学オープンカレッジにて、黒岩英臣、沼尻竜典の各氏に師事。音楽理論を中原達彦氏に、ピアノを田中美江氏に師事。東京音楽大学特別講座にて、パーヴォ・ヤルヴィの指揮公開マスタークラスを受講。その模様がNHK「クラシック音楽館」にて放送される。新日鉄住金文化財団指揮研究員として、紀尾井シンフォニエッタ東京、東京フィルハーモニー交響楽団の下で活動する。その後東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団指揮研究員として、宮本文昭、飯守泰次郎、矢崎彦太郎の各氏をはじめとする指揮者の下で研鑽を積む。2016年、サントリーホールで開催された「こどもたちのコンサート」特別公演にて、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のメンバーと仙台ジュニアオーケストラの合同演奏を指揮する。同年、浜松フィルハーモニー管弦楽団の演奏会にて、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団に所属するオーボエ奏者のクリストフ・ハルトマンやクラリネット奏者のヴェンツェル・フックス、ホルン奏者のシュテファン・ドゥ・ルヴァル・イェジエンスキーの各氏らと共演する。

これまでに、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、大阪交響楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、仙台フィルハーモニー管弦楽団、千葉交響楽団、東京混声合唱団、広島ウインドオーケストラなどを指揮する。また、各地のジュニアオーケストラや学生オーケストラ、吹奏楽団、合唱団を指揮する。2016年度より2020年度まで、仙台ジュニアオーケストラ音楽監督を務める。

プログラム

第1部 アンサンブルステージ

金管アンサンブル

福田洋介 / ピーコック・ブルー

Yosuke Fukuda/Peacock Blue

弦木アンサンブル

L. シュポア / 九重奏曲 へ長調 より第一楽章

L. Spohr/Nonet in F Major, Op.31 1st Mov.

木管アンサンブル

G. ビゼー / シンフォニック・ウィンドのための『カルメン』メドレー

G. Bizet/A Carmen Medley-symphonic wind

弦楽アンサンブル

E. エルガー / 弦楽セレナーデ ホ短調 作品20

E. Elgar/Serenade for Strings in E minor, Op.20

第2部 オーケストラステージ

指揮：平川範幸

J. シベリウス / 交響詩『フィンランディア』

J. Sibelius/Finlandia

J. シュトラウスII / 喜歌劇『こうもり』序曲

J. Strauss II/Die Fledermaus overture

久石譲 / 『ハウルの動く城』 SYMPHONIC VARIATION “MERRY-GO-ROUND” for orchestra

Joe Hisaishi/『Howl's Moving Castle』 SYMPHONIC VARIATION “MERRY-GO-ROUND” for orchestra

金管アンサンブル

福田洋介 / ピーコック・ブルー

クジャクの色鮮やかな立ち姿は古来からの神話、信仰の対象としてあがめられるほどに人々に鮮烈な印象を与えてきた。この曲はそのようなクジャクの姿そのものではなく、ピーコック・ブルー（クジャクの羽や首にみられる明るい青色）という曲名にあるように、その色合いに着想を得て作られた。クジャクの羽を想起する豪華さや雄が雌を誘うような独特のリズム感を、金管楽器ならではの重厚感のある音色と、曲の中で刻々と変わるリズムを堪能しながら体感していただきたい。(Tub. 田中)

弦木アンサンブル

L. シュポア / 九重奏曲 へ長調 より第一楽章

ヴァイオリニスト、指揮者として19世紀前半にウィーンで活躍したドイツ人作曲家、ルイ・シュポアによる九重奏曲である。彼はヴァイオリンの顎当てを発明し、指揮棒を導入した人として知られている。室内楽としては最大規模の、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルンの木管五重奏と、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバスの弦四本から成る。

この曲は、「四本の弦と木管五重奏で構成される九重奏曲を、各楽器の個性が引き立つように書いてほしい」という織物商人トストからの依頼で作られた。ヴァイオリンによって提示され、様々な形で楽章全体に再現されるモチーフと、軽やかに優美な音楽をお楽しみいただければ幸いである。(Va. 地場)



木管アンサンブル

G. ビゼー / シンフォニック・ウィンドのための『カルメン』メドレー

劇音楽を得意としていたジョルジュ・ビゼーが、メリメの小説を原作にパリのオペラ・コミック座のために書き下ろしたオペラ『カルメン』。この作品は1875年に初演され、100年以上経った今でも変わらず名作として愛され続けている。

自由奔放なジプシー娘カルメンに心を奪われた純情な青年ドン・ホセが、それを機に身を持ち崩して転落人生へまっしぐら。後には愛憎のもつれからカルメンを刺し殺してしまう... という衝撃のストーリーが、情熱的なスペインのリズムに彩られた親しみやすいメロディに乗って展開していく。今回は木管楽器を中心とした編成で、数曲を抜粋して演奏する。(Cl. 町田)

弦楽アンサンブル

E. エルガー / 弦楽セレナーデ ホ短調 作品 20

この曲は『威風堂々』や『エニグマ変奏曲』で知られる、イングランドの作曲家エドワード・エルガーが1892年に作曲した弦楽合奏のための楽曲である。愛妻家として知られるエルガーが妻アリスに3回目の結婚記念日のプレゼントに贈った曲として知られている。

第1楽章では、イギリスの民族的なリズムと様々なソロパートによる印象的なメロディーが繰り広げられる。続く第2楽章は夜想曲風に盛り上がり、民族舞曲らしさと夢想的な要素を兼ね備えた第3楽章で終わりを迎える。弦楽器の魅力が存分に活かされた、ロマン溢れる音楽をお楽しみいただければ幸いである。(Vc. 有田)



J. シベリウス / 交響詩『フィンランディア』

『フィンランディア』は、フィンランドの作曲家ジャン・シベリウスが作曲し、彼の作品の中でも最も有名なものの一つである。帝政ロシアの圧政によってフィンランディア大公国が苦しめられていた1899年に作られたこの曲は、フィンランドがロシアから独立する様子を描いたとも解釈される。

冒頭の金管楽器による序奏は、ロシアの圧政による苦しみや厳しい寒さを連想させる。その後フィンランド人の苦悩や嘆きを感じられる木管楽器と弦楽器の暗い旋律が続き、それはロシアへ立ち向かう闘争心へと変わる。ティンパニが煽る中冒頭のメロディが再現され、力強いモチーフが訪れる。曲調は力強さを保ったまま明るく変わり、ロシアに屈しないという国民の強い意志や前向きな気持ちが曲を盛り上げる。前半で登場した闘争心を象徴するリズムは明るくなりながらも引き継がれ、国民が団結してロシアに抵抗する様子を想像させる。場面は少し変わり、盛り上がりが見え、有名な『フィンランディア讃歌』が歌われる。その旋律は愛する母国がロシアに支配される前の素晴らしい過去を回想し、またそれを取り戻したいという願いが込められている。また場面は戻り、明るく力強い旋律が再現されながら大きく盛り上がっていく。最後には『フィンランディア讃歌』のメロディも合わせ、壮大な雰囲気の中曲が結ばれる。(Vn. 植草)

J. シュトラウス II / 喜歌劇『こうもり』序曲

『こうもり』は、『美しく青きドナウ』などで知られるワルツ王ヨハン・シュトラウス2世(1825-1899)によって作曲されたオペレッタ(喜歌劇)であり、1874年にウィーンで初演された。ウィンナ・オペレッタの最高傑作とも称され、通常オペレッタを上演しないウィーン国立歌劇場など一流歌劇場においてもこの作品は上演された。物語が大晦日のパーティを軸としていることから、特にドイツ語圏の歌劇場では年末年始の定番となっている。

タイトルの『こうもり』とは、登場人物のファルケ博士に付けられた不名誉なあだ名のことである。ある仮装舞踏会の帰り、資産家アイゼンシュタインは酔いつぶれた友人、ファルケ博士をこうもりの仮装のまま道端に置き去りにしてしまう。それ以来「こうもり博士」とあだ名がついたファルケは、いつかアイゼンシュタインに仕返しをしようと企む。そんな彼の復讐劇がこの物語の軸となっている。

これから始まる笑いの復讐劇を予感させる冒頭の飛び跳ねるような序奏に始まり、オーボエのやわらかなメロディが続く。その後もオペレッタの中の様々な曲が続々と登場し、最後は今までのメロディが再現され、華やかで浮き浮きとした雰囲気の中で曲は閉じられる。(Ob. 山下)

久石譲 / 『ハウルの動く城』 SYMPHONIC VARIATION “MERRY-GO-ROUND” for orchestra

2004年公開の宮崎駿監督作品の映画『ハウルの動く城』。この映画は魔女の呪いで90歳の老婆に姿を変えられてしまった18歳の少女ソフィーと魔法使いハウルの共同生活を通して生きる楽しさや愛する喜びを描いている。「ひとつのメインとなるテーマ曲を」という宮崎監督の要望を受けた音楽家久石譲は、「ソフィーは作中それぞれのシーンで年齢や表情を変えるが、同じテーマを流し続けることで映画に統一性を持たせようとしているのだ」と解釈し『人生のメリーゴーランド』を作曲した。そのバリエーションを中心にサウンドトラックが構成されているが、それらの楽曲が見事につながり、交響的変奏曲として生まれ変わった作品がこの『SYMPHONIC VARIATION “MERRY-GO-ROUND”』である。きっと誰もが聴いたことのあるであろう『人生のメリーゴーランド』のあのメロディーが七変化する様を、ぜひ映画を思い出しながら楽しんでいただきたい。(Trp. 下澤)



今後のお知らせ

45期卒業記念演奏会

2022年3月13日(日) 開場 13:15 開演 14:00 市民ホールやたべ

指揮 田中一嘉

R. ワーグナー / ニュルンベルクのマイスタージンガーより第一幕への前奏曲

P. チャイコフスキー / 交響曲第5番 ホ短調

第91回定期演奏会

2022年5月7日(土) 昼公演 つくばセンタービル ノバホール

指揮 佐々木新平

C. サン=サーンス / 交響詩『死の舞踏』

E. グリーグ / 『ペール・ギュント』 第一組曲・第二組曲より抜粋

L.v. ベートーヴェン / 交響曲第3番『英雄』変ホ長調

第92回定期演奏会

2022年9月28日(水) 夜公演 つくばセンタービル ノバホール

指揮 小田野宏之

お客様へのお願い

- 会場内ではマスクをご着用いただき、手洗い・手指消毒の徹底をお願いいたします。
- ロビーやお手洗い等では人との間隔を1m以上おとりください。
- 開演前及び休憩時間の会話はなるべくお控えください。
- 公演中に体調を崩された場合は、ロビースタッフにお声がけください。
- 楽団及び出演者への贈答品、終演後の面会等はご遠慮ください。
- 公演終了後は、退場時の混雑を避けるためスタッフの指示に従っていただきますようお願いいたします。
- 再入場の際には、本パンフレットもしくはteketの画面をスタッフにご提示ください。
- 「ブラボー」等の掛け声はご遠慮ください。

ご来場後2週間以内に新型コロナウイルスへの感染、または陽性とされた方との濃厚接触が判明した場合は、以下にご連絡をお願いいたします。




E-mail: orchestra.tsukuba@gmail.com(平井)

「いばらきアマビエちゃん」

新型コロナウイルスに感染された方が発生した際、県から「その感染者が訪れた場所を同じ日に訪れた方」に対してメールで注意喚起のお知らせが届きます



【ご利用方法】

- 01  右上に記載のQRコードを読みとる
- 02  読み取ったURLにアクセスして表示される「登録する」を選択
- 03  表示されるメール画面からそのままメールを送信すると登録完了

団員募集!

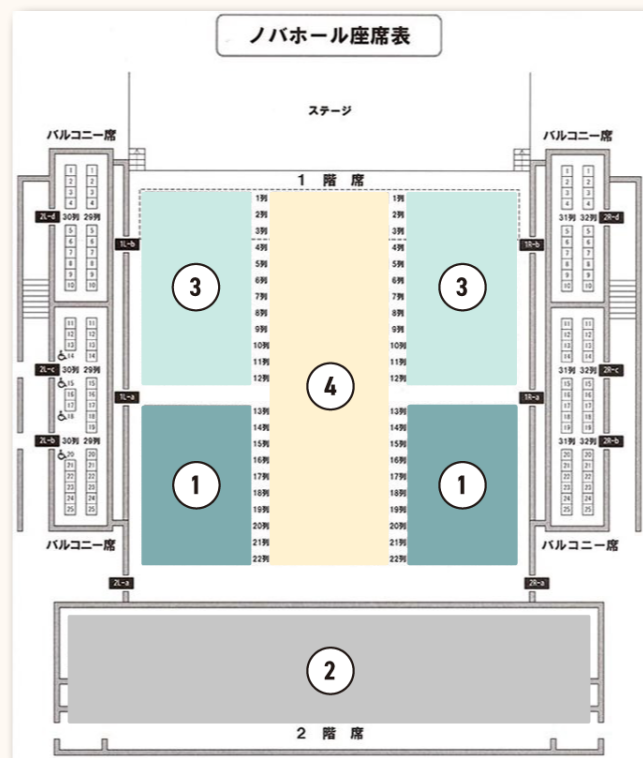
急募: Va. Cb. Cl. Trb. Perc.

筑波大学管弦楽団で私たちと一緒に演奏しませんか?

当団では経験者の方ももちろん、初心者の方も大歓迎です!

時差退場へのご協力をお願い

※アナウンスにて以下の順番でご案内しますので、
終演後はそのままお席でお待ちください。



- ① 1階席後方(13-22列)左右ブロック
- ② 2階席(来賓のお客様もこのブロックでご退場ください)
- ③ 1階席前方(1-12列)左右ブロック
- ④ 1階席(1-22列)中央ブロック
- ⑤ 車いすをご利用のお客様は最後にご案内致します

